

2005年度
ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む
児童生徒を指導する教師の意識についての調査報告
2006年6月1日

1)河崎 睦2)水谷 浩三3)米田 謙三4)山田 真稔

[所属]

1)神奈川県綾瀬市立土棚小学校2)三重県 暁学園暁小学校3)大阪府羽衣学園高等学校
4)和歌山県かつらぎ町立大谷小学校

1.1 はじめに

ユネスコ・世界寺子屋運動とは？

将来に大きな希望を持ち、その夢に向かって学びたくても貧困や紛争などのために学校に通えず、読み書き計算ができない人々、今現在学校に通えないでいる子どもたちが、世界中に10億人ほどいます。この公共機関で教育を享受できない皆さんが、読み書きや算数(識字能力)を学び、収入向上に結びつくトレーニングを受けられるような「学びの場=寺子屋」の建設、教員養成、教材・教具の提供など、教育のチャンスを支援する運動が「ユネスコ・世界寺子屋運動」です。この「ユネスコ・世界寺子屋運動」は、(社)日本ユネスコ協会連盟が識字教育をおこなっている発展途上国の民間団体(NGO)や地方行政機関(教育委員会)と連携して独自に推進している運動です。2015年までに「すべての人に教育を」をスローガンに、アフガニスタンやインド、ネパール、カンボジアなど、アジアを中心に、寺子屋(コミュニティ学習センター)を通じ、そこで生きる人びとによる自立を目指していくことを目標としています。

活 動

リーフレット制作活動を通して、ユネスコ・世界寺子屋運動を学び、運動を支援します。

ねらい

ユネスコ・世界寺子屋運動への支援を通して出会った人やものに関わりを持つ中で、情報教育、国際理解、平和教育、人権教育などを推進し、総合的な学習の時間がめざす、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。

重 点

世界寺子屋運動をより多くの皆さんに理解してもらうための効果的なリーフレットの要件やデザインを考え、追及する活動を通して、より分かりやすく印象的に伝える方法を学び、情報活用能力を育成します。

研 究

世界寺子屋運動を支援する活動の中で、リーフレット制作が子どもたちの学びにどういった役割を果たしたか、総合的な学習の時間におけるデジタル表現活動の意味を明らかにします。リーフレット制作が、活動全体の流れの中で、どの時点で、どういった授業で展開されるのが有効・適切であるかを検証します。

プロジェクトについて

2005年度も公募により、前年度を上回る21校、1,455名の子どもたちが参加します。昨年度からのリピーター参加が多いことが、このプロジェクトのチームワークと学びの確かさを何より物語っています。今年度も北海道から九州までカバーし、数名の小規模参加から百名以上の大規模参加、そして小学3年生・5年生・6年生・中学1年生・高校1年生・2年生と、各校種、学年がそろったダイナミックな全国組織の大プロジェクトになりました。

ユネスコ協会やデジタルデザインの専門家の皆さん、地域の皆さん、参加校同士の交流など、人と人のかかわりの中で学びに、デジタル表現活動での学びを寄り添わせ、単独校の活動では得られないプロジェクトベースならではの課題追求学習のよさを実感して推進していきたいと思えます。

そして、日本では考えられない非識字の現状と出会い向き合う参加校の子どもたちと教師が一緒になって、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」というユネスコ憲章前文の理念に迫るプロジェクトをめざします。また、D-project調査研究プロジェクトと連携して、子どもたちの意識や学びを明確に捉えていきたいと思えます。

調査目的

以上のような状況をふまえて、ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む児童生徒を指導する教師が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする必要があると考えられる。そこで、webアンケートを実施した。

2. 研究の方法

2.1 教師の意識調査

2.1.1 調査目的

ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む児童生徒を指導する教師が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

2.1.2 方法

(1) 調査対象者

ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組むに取り組んだ児童生徒を指導する教師23名

小学校 20名

中学校 1名

高等学校 2名

(2) 調査期日 2006年2月6日 から 同3月17日

(3) 調査項目

調査はメールを媒体として行った。

○ユネスコプロジェクトに参加した動機を書いてください。

○ユネスコプロジェクトに参加してみて、子どもたちにどのような学びがあったと考えていますか。

○ポスターを作っている時の子どもたちの様子を書いてください。

○ユネスコプロジェクトで活動している時のエピソードなどありましたら書いてください。

○ユネスコプロジェクトの活動について、ご意見やご要望がありましたらお書きください。

○ユネスコプロジェクトにかぎらず、デジタル表現を教育に取り入れることにどんなことを期待されていますか。

アンケートはここまでです。ありがとうございました。

2.1.3結果と考察

<p>○ユネスコプロジェクトに参加した動機を書いてください。</p>
<p>参加の動機は、大きく分けて以下のようなものであった。</p> <ul style="list-style-type: none">・国際教育の視点から参加した。・本物のパンフレット作りという体験ができる。・全国の子どもたちと交流ができる。・ボランティア活動からの発展が期待できる。・他校・異種校交流ができる。 <p>・以上を含んだ大きな学習成果を期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none">・実績がある。管理職の賛同を得やすい。・水谷先生の影響。 <p>以上のことから、参加した教師は様々な動機からユネスコプロジェクトに参加していることが分かる。特に「様々な学び」をあげている場合が多い。</p> <p>以下、主だった意見を列記する。</p>
<p>活動を通して子供たちが大きく成長する姿を目の当たりにしたので。</p>
<ul style="list-style-type: none">・英語以外の生きた国際理解教育をしたかった。・地域とのかかわりを持たせる中で、ボランティアの心を育てたかった。
<p>コンピュータのスキルアップだけではなく、総合学習の意味を多く含んだプロジェクトだと感じたのです。特に心を打たれ、プロジェクトに参加する決意をしたのは、小学生による見事なプレゼンでした。</p>
<p>昨年も参加して児童に大きな学びがあったから、今年もぜひ参加したいと思った。</p>
<ul style="list-style-type: none">・学習が本物として、実際のパンフになる。・学習がステップアップできる。・学習体系、活動が明確化されており、見通しがもてる。・他校・異種校交流ができる。・平和、国際の学習に関連付けられる。・過去の実績があり、校長の推薦ももらえる。
<p>命や平和などについて考え、自分たちにできることを見つけて行動するための貴重な機会となると考えたから。</p>
<p>「世界」という視点で物事を捉える体験をさせたかったから。</p>
<p>自分たちに出来ることについて子ども達なりに考えて欲しいと思い、今年も参加させていただきました。</p>
<p>総合学習の一環として、グローバルな視点の話題を自分たちの身近な事象に結びつける経験をさせることを狙った。この経験を身の回りでおこるいろいろな事への見方に応用をはかりたいと考えて参加した。</p>
<p>過去2年間の参加と、子どもたちの学びが期待できるプロジェクトであったため。</p>
<p>リーフレット作りは、子ども達が楽しみながら取り組むことができ、世界寺子屋運動の学習では、世界に目を向けることができると思ったからです。</p>
<ul style="list-style-type: none">・同僚の先生に紹介され、国際社会に目を向け、自分たちで活動を行うことで、子どもたちが成長するよい機会になると考えたため。・福祉・ボランティア教育に興味があり、子どもたちも楽しみながら活動することができそうだと感じたため。
<p>全国の子どもたちと一緒に活動することで、自分たちの活動が実は大きな力となっていることを実感させて参加しました。また、本物を作ることで責任ある学習も経験させたかったです。</p>
<p>生徒に、明確なゴールを意識して、活動に取り組ませたい。また、全国規模のプロジェクトに参加することで、生徒に自信をもたせたい。</p>

○ユネスコプロジェクトに参加してみて、子どもたちにどのような学びがあったと考えていますか。

心情面と技術面での学びを大きく感じていることがわかる。

「リーフレット制作の前に学習したユネスコ「世界寺子屋運動」から、世界には自分と違った境遇に置かれている子ども達が大勢いること、非識字者がこんなにも多いことを知り、視野が広がると共に、自分たちは恵まれていると自分を見直すことができたのは、大きな学びだったと思います。」

- ・世界の広がりを体験できたこと。
- ・子どもたちの視野の広がり。
- ・子供達の意識が能動的になった。
- ・自分たちができることは何か考えるようになった。
- ・他教科との関連で取り組ませることができた。
- ・外部評価されることで存在感が体験できた。
- ・たくさんの人との出会いがあった。
- ・より分かりやすく印象的に伝えるリーフレットの要件やデザインを考え、コンピュータを使いまとめることができる。

- ・国語の表現力向上(キャッチコピーなどで伝える工夫)
- ・色彩感覚
- ・世界にはいろいろな子どもたちがいるという認識

リーフレット制作の前に学習したユネスコ「世界寺子屋運動」から、世界には自分と違った境遇に置かれている子ども達が大勢いること、非識字者がこんなにも多いことを知り、視野が広がると共に、自分たちは恵まれていると自分を見直すことができたのは、大きな学びだったと思います。

・子供たちは、国語科や社会科、道徳などの他教科と関連させて取り組んだので、心情面で高まりが見られた。また、全校や自分の住んでいる地域へ活動を展開したので、行動力が少しは身に付いたかなと思う。

- ・取り組み成果が、帰ってくることで、外部評価され、存在感がたかまる。
- ・他校の作品から、学習ができる。
- ・世界の子どもに目(意識)がむくようになった。

・ユネスコ・世界寺子屋運動を支援する活動を通して出会った人やものとかかわりを持つ中で、より分かりやすく印象的に伝えるリーフレットの要件やデザインを考え、コンピュータを使いまとめることができる。

まず、字を読み書きできることが、みんなの幸せにつながっているということに気づけたこと。次に、コンピュータを使って効果的に表現する方法を学んだこと。さらに、自分たちにも何か役に立つことができるという満足感を得たこと。

自分たちの住んでいる世界が世界のすべてではないということを知ることができたのが、最も大きな学びだったのではないのでしょうか。

「世界には、学校へも行けない子どもがなんて多いのだろう」、「自分たちに出来ることは何だろう」、「自分たちが少し頑張ることで、たくさんの人助けになる。」など、少しではありますが考えることができ、子ども達の視野が広がったように思います。

いろいろな考え方、ものの見方があるということ。自己満足だけを追究しても、解決できないことがたくさんあるということ。とはいえ、自分のすべきことに熱中没頭しました。自分の考えを持ち、よりよく行動しようとするのが大切だと考えるようになった。生活範囲だけにこだわらず、社会という視点で物を見るようになった。以上 情意面パソコンやデジタルに興味を持った。操作技術が格段に向上した。発信することに、興味を示した。以上、技術面

○ポスターを作っている時の子どもたちの様子を書いてください。

リーフレット制作にあたり、児童・生徒たちを見た教師は、「よりよい作品に仕上げたいという意欲が、時間を追う毎に高まっていきました。」と感じていたことがわかる。

- ・試行錯誤の連続に、粘り強く取り組んでいた。
- ・友だちの影響を受ける。
- ・教え合いが多く見られた。
- ・見る人の目を意識した活動となった。
- ・発信することが意欲につながった。

・とにかく集中していました。授業時間はもちろん休み時間にも進んでコンピュータに向かっていました。また、友だち同士、教え合う姿を頻繁に見ました。ソフトの操作についてはもちろん表現方法などでもお互いの良いところを取り入れるなどしていました。

子ども達はまず、キャッチコピーに頭を悩ませていました。キャッチコピーが考えつくと、次々に作業が進んでいくようでした。ポディーコピーを書くために、ユネスコのWEBを見て学んでいる様子も多く見られました。そして、よりよい作品に仕上げたいという意欲が、時間を追う毎に高まっていきました。

自分のこれから作るリーフレットに込める願いや思いを明確にしてから作り始めたので、文字の色、背景の色、写真などを選択するのに試行錯誤を繰り返しながら作成していた。できあがった子供は、友達同士で見直しをしながら訂正を加えて完成へと向かっていた。

伝えたいことを決めるキャッチコピーを考えるー全体の構成を考える(下書き)
作成するという活動のどれにもねばり強く取り組んでいた。要旨をまとめて書くという活動に苦手意識を持つ児童が多いのだが、ポスター作りへの意欲が高いためか、まわりと相談したり何度も書き直してよりよいものを作ろうとしていた。一度クラスごとにブラッシュアップをしたのだが、色や構成だけでなく、内容についてもいろいろな意見が出ていた。

自分の伝えたいことを表現するために試行錯誤を繰り返し自分なりに納得のいく作品を仕上げようとしていた。友だちの表現から学び、自分の作品にもよい面を取り入れようとしていた。

取り組み始めのころは、ただひたすらに飾り立て、それはそれで楽しそうではありましたが、だんだん『見てもらうために』という姿勢に変わって行ったのが、面白かったです。

熱中して取り組んでいました。言いたいことを、要約したり、効果的な言葉に変換させていくのには時間が足りませんでしたが発信ということに意欲を持てるようになりました。他校のまねの段階を十分には突破できませんでしたが、発信の指導を十分に受けてこなかった児童たちにとっては貴重な体験となりました。ソフトの操作はやや難しい面があったように思います。

表現するための方法(技術)にこだわっている子どもがいた。

初めてのソフトを使っての学習だったので、数多くの機能を指導することができなかったが、背景、文字色、形、写真の取り込み等の機能をグループでよく話し合い、何回もやり直ししながら作っていた。また、余った時間で年賀状を作る児童もあった。

- ・友達どうして見せ合いながら、アドバイスをしたり、してもらったりしていた。
- ・わからない作業方法や新しく発見した作業方法などを教えあったりしながら作業をする姿が見られた。
- ・わかりやすく伝えるということに重点を置いていたため、キャッチコピーなど何度も繰り返し考えていた。

○ユネスコプロジェクトで活動している時のエピソードなどありましたら書いてください。
児童・生徒たちの活動の様子が伺える結果となった。ユネスコプロの発展の可能性が読み取れる結果となった。
「・給食時間に嫌いなものが出てきても、食べられない人たちもいるのだから、と食べようとする姿勢が出てくる子がいた。」 「1日中働いてから学校へ通う子どもたちの様子を見て、かわいそうだから助けてあげるといふ気持ちから、あの子たちのように自分たちもがんばらなければ・ ・という気持ちも芽生えてきた。 書きそんじハガキを送っていただいた方にお礼の手紙を書いたら、とても喜んでくださって仲間に声をかけて再度送っていただくことができた。」
・夏休みの暑期中、半日をかけて町内会を回りリーフレットなどを置いて回る。所属する少年団にリーフレットを配り書きそんじ葉書を集める。など子供たちが「自ら進んで」活動を行いました。
・無口であり話さない子が、いいコピーを考え、みんなに認められた。
正直、活動自体は殆どできない状況でした。エピソードと言われれば、ゲストティーチャーとしてきてくださった杉並ユネスコ協会の学生・高橋君に思いを寄せた子がいたようでした。(くだらないことで、すみません。)
ユネスコの方々や活動のプロセスで、様々な人と出会うことができ、平和について多くの示唆を得ることができました。
・子供たちが、地域へ働きかけをしていたとき、書き損じはがきは、そんなに集まらないだろうとたかをくくっていたところ、予想外にいっぱい集まってびっくりしていたことと、地域の方々から励ましの言葉をかけてもらって、感動していたことがあった。また、新聞社から取材の申し入れがあったことも驚きの材料でしょうか。
グループで校内の各学年を担当しはがき集めをしている。3回目でやっと1枚もらえたグループは大感激。これからいろいろな活動にはすぐ協力しようと話し合っていた。
・文化祭(ながたっこフェスティバル)にとどまらず、保護者のパザーにも募金活動をするといいだした。 ・6年と3年で、形をかえて取り組んだが、6年生は、3年生のアピールをみて驚き、「これではいけない」と、私のところに、いろいろたずねにきた。
1日中働いてから学校へ通う子どもたちの様子を見て、かわいそうだから助けてあげるといふ気持ちから、あの子たちのように自分たちもがんばらなければ・ ・という気持ちも芽生えてきた。 書きそんじハガキを送っていただいた方にお礼の手紙を書いたら、とても喜んでくださって仲間に声をかけて再度送っていただくことができた。
・インドに行った早稲田大学の学生さんや、浜松ユネスコ協会の方に話を聞いたことで、世界には字が読めない人がいることを知り驚いていた(日本の当たり前が通じないことに驚いていた) ・葉書が郵便で届いたり、近くの方が実際に集めてくれると言ってくれたり、よき大人に出会うことができた。
ポスターの色や形に思いをこめることまではできなかったけれど、テレビ会議で小の友達が丸い形に思いを込めたという話を聞いて、子どもたちは口々に「へー」「すごい！」とっていました。刺激を受けた瞬間でした。テレビ会議による交流活動を計3回行いましたが、どんどん刺激を受けている様子でした。特に名古屋ユネスコ協会さんとは出前授業の後、2回のテレビ会議を行うことで、子どもにとって知らない遠い存在から、非常に身近な存在になりました。
仲の悪かった児童が、お互いの作品のブラッシュアップを通して仲良くなったということがありました。
他校とのTV会議の折、こちらの子どもの作品の中の一つのマークについて質問がありました。ちょっとしたマークだったのですが、こどもなりにそのマークへの思い入れがあり、しっかりと意味を述べていました。作らせている担任の方が驚いた次第でした。
宝塚ユネスコさんと一緒に募金活動をさせていただいたときにはなんともたくましい姿でした。縁日の参道にたち、大人に向かって1日大きな声でよびかけていました。子どもの声がひびく様子はほんとうに気持ちのよいものでした。募金も例年よりたくさんあつまり、喜んでいただけました。また、ふだんではあいさつや正しい言葉づかいが十分できない子どもたちが社会の風に当たることで自分たちの姿を再認識するきっかけになりました。

・アダルッシュ シャルマさんというインドの方から、インドのお話を聞く機会を作ることができました。そのようすを、米田先生がTV会議でのぞいてくれていましたが、休み時間に二人で話をしてもらおうと、実は知り合いだったと言うことが判明しました。世間は狭いです。・夏休みに行われたアフガンテレビ会議に椿井も参加表明しましたが、さすがに来る子達は少ないでした。あらかじめ、学校で練習していたミニバス部員の子達に声をかけ、練習後すぐに参加。短パン、ランニングにバスタオルを首からかけて、汗だく姿で聞かせて頂きました。アフガンではバスケよりサッカーが盛んとのこと。少し期待はずれのような感じでした。

本校は今年で3年目。教師や地域の方々の中には、この活動のために書きそんじハガキをとっておいてくださった方もいた。地元ユネスコ協会の方の来校は通算5度目(3月にもう一度お願いする予定)であるが、毎回新しい情報を提供していただいている。まだこれからもう少し活動するので、もしかしたら何かドラマが(あってほしいのですが...)

書きそんじハガキ回収について、話し合いをしているときはいろいろな意見が出ました。

・給食時間に嫌いなものが出てきても、食べられない人たちがいるのだから、と食べようとする姿勢が出てくる子がいた。

・リーフレットの出来ばえを学校の先生たちにほめられて恥ずかしそうにしていたが、自信をつけたようで、他のことにも積極的になってきた。

書き損じハガキをどうして集めているのかを、ほかの子どもや地域の人にしっかりと伝えることができました。これまでは、送られてくる資料を見て何となく取り組んでいましたが、活動の目的をほかの人に伝える広告係のようなことができたと思います。どちらかというと控えめな子が、自信をもってほかの人に伝える様子が印象的でした。

<p>○ユネスコプロジェクトの活動について、ご意見やご要望がありましたらお書きください。</p>
<p>ブログやわいわいレコーダの制約を上げている。 手紙やビデオの活用を促進したい。 もっと交流活動を広げたい。 などの意見があがっていた。</p>
<p>・子供たちの発表の場を設けて頂いたり、アシスタントとして授業に入ってもらったり、地元のユネスコ協会にも多くの支援をいただいています。こういった関わりがより密接なものになっていくとよいと思います。</p>
<p>わいわいレコーダーで、ボードを作り交流を呼びかけたのですが、対応してくれる学校がなく、なんのためのデジタルプロジェクトだったのか疑問を抱きました。またブログなども書き込みが、一部の学校に限られ、「交流・学び合」という点からみると、大変課題の多いプロジェクトだと思いました。</p>
<p>・今回参加させてもらって、この活動を通して子供たちの力がすく伸びたことに手応えを感じている。大変ありがたいと思った。</p>
<p>自分たちが作成したリーフレットをはがきを集める活動で本当は使わせたいが、印刷費の関係で実現できないのが現状。印刷費の補助などがあると助かります。</p>
<p>・本校では、6年の総合に位置づけられたが、スキルのところでは、3年生でも取り組める。ユネスコグッズの貸し出しを、大きく教育新聞などに出してはどうか？(募金を募る)</p>
<p>本校の場合、通信環境の関係で難しい面があるが、同じ活動に取り組む仲間たちと手紙やビデオ、テレビ電話などを通して交流活動も進めたい。</p>
<p>・情報教育、国際理解教育の融合となっており、校内でも実践をしやすかったです。素晴らしいプロジェクトだと思います。</p>
<p>今年度は学校側の不手際があったにもかかわらず、最後まで活動ができたのは、名古屋ユネスコ協会さんとユネスコプロジェクトの運営の確かさのおかげでした。このプロジェクトは教材としてのパッケージ度が完成されていると思います。とてもすばらしいです。あとは、参加校側の取り組み方の問題ですね。</p>
<p>遠い国の遠い世界の出来事だと思っていたことを、同じ時代を生きる子どもとして、少し身近な問題としてとらえることができたのではないのでしょうか。これからもこのような機会があれば、参加させたいと思います。</p>
<p>いろいろと手配いただきありがとうございました。</p>
<p>・ブログを開いて頂きながら活動が不十分で投稿できなかったのが残念です。でも、MLだけでは内に開かれているだけなので、外に向かって発信するブログはこれからも続けたいかなと思います。</p>
<p>一年の大きな流れとそれぞれのフェーズが見えるので、取り組みやすく、また、学ぶことも多くあると思います。MLも含め、活発に活動できていると思います。リーフレット作品が媒介となって行われる交流が一番大きく、このときに一緒に活動している学校があるのだと意識します。学びの場としての掲示板やブログもありますが、ついて行けていない状況です。今回東京プレゼン枠を頂きましたが、例えば教員が集合するのに加えて、子どもの代表が集まって会議したり、日ユ教の協力を得て講義をいただいて研修するような場面があったらすごいことになるのではないのでしょうか。(もちろんテレビ会議なども活発なので必要性は…ですが)</p>
<p>子ども達が、世界に目を向け、たくさんのごと学ぶことができるすばらしいプロジェクトです。サポートも充実しており、とても助かります。</p>
<p>・他の学校の様子などが分かり、意欲につながった。初めての参加で不安があったが、他の学校の様子が分かることにより、どんなことをしたらよいかヒントをもらいながら進めることができたのでよかった。</p>
<p>もっと早い時期(3月もしくは4月)にその年度の立ち上げができると、活動にゆとりがもてるような気がします。現在の状況では、活動を充実させる時期に、大きな学校行事にかなり影響を受けています。</p>
<p>スタディーツアーの計画を作製して頂いたことは嬉しいのですが、費用の面がもう少し安くなれば有り難いです</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・WEBを使っの会議や交流が 少し足りなかった。 ・地域ごとの 学校同士で連携を深めたい ・ユネスコ協会とも もっと連携したい
<p>県のネットワークの制約で、わいわいレコーダー・TV会議は外部との接続が不可能でした。ネットの制約をなんとか克服できたと思います…難しいですね。(TV会議は、もしかすると本県のシステムに外部からアクセスすることは可能かも？ということが最近わかりました。)</p>

3 総合考察と課題

総じて言うと、指導した教師は、児童生徒の確かな学びに気づいていることがわかる。それは、リーフレットを作成している場面に限らず、このプロジェクトの様々な場面から児童生徒の学びを感じている。こうした様々な側面を持つプロジェクトを一概に評価することに困難さを感じている。今後、どのような学びが期待できるのかを整理していく必要があると思われる。

4 謝辞

児童・生徒がつくるユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作プロジェクト2005を進めるにあたって、日本ユネスコ協会連盟、全国各地のユネスコ協会の皆さんはじめ、書きそんじハガキ回収など支援活動にご協力いただいた皆さん、たくさんの皆さんのご支援とご援助をいただきました。ここに記し、お礼を申し上げます。